

郷土の歴史 361

八潮の地名考

木曾根の地名 その由来



木曾根 現八潮市大字木曾根・八潮の区域。木曾根は、古利根川右岸の沖積地に位置し、自然堤防上に中世集落が発展した。地名の起立は、木々が繁茂する小高い土地に因むと言われる(八潮の民俗資料三)。自然堤防上の上木曾根付近は、古代の条里遺構地と見られている(埼玉県史跡調査会報告書)。

問ごろの勸請といわれ、久伊豆神は埼玉郡の最南端の神社であった。中世期の板碑では、文明元年(一四六九)や文明七年(一四七五)、享禄年間(一五二八〜三一)など、年不詳を含め一六枚が分布する。木曾根村 現八潮市大字木曾根・八潮の近世初頭から明治二十二年(一八八九)までの村名。近世期の木曾根村は、天正十八年(一五九〇)から寛文四年(一六六四)まで徳川(幕府)領、寛文四年から松平民部少輔領、延宝六年(一

六七八)から堀田筑前守領、貞享二年(一六八四)から松平日向守領、元禄七年(一六九四)から松平伊豆守領、元禄十一年(一六九八)から幕府領となり代官支配地となった。寛永四年(一六二七)の検地では、高六九三石二升七合・反別九七町五反二八歩、内田が五七町四反八畝二四歩で水田優位の村落。石盛りは、水田が上一・中九・下七、畑が上八・中六・下四・屋敷一〇であった。新田開発の検地は、文政二年(一八一九)に古利根川堤外新田の高二石九斗七升八合・畑反別九反二畝二四歩があった。天保六年(一八三五)次の総村高は六九三石五合、家数八五軒・人口四八五人、外に寺四軒(普門寺・金蔵院・正福寺・明王寺)・寮三軒、名主役高四一石七斗七升九合であった(八条領村誌)。河川用排水路は、八条用水路が二五六間、古利根川中川筋藻刈組合が二六三間等を管轄した。

江戸期の寺院は、彦成円院末寺の普門寺と金蔵院、正福寺、明王寺、村持の地藏堂と観音堂、普門寺持の不動堂等。神社は、村民持の八幡社、金蔵院の境内社の氷川社、正福寺境内社の稻荷社などがあつた。なお真言宗普門寺は、彦成村(三郷市)・円明院祐盛の弟子盛源が開山した寺院で、盛源は慶長十三年(一六〇八)十二月九日に寂した。普門寺に住した唯阿(伝燈大阿闍梨法印大雲一阿)は、文化九年から文政元年まで、新義真言宗本山長谷寺の三世の能化になられた僧である。そして文政六年(一八二三)十二月十二日に寂した。同八年(一八二五)に長谷寺から贈られた唯阿の法衣が普門寺に伝えられる。なお普門寺は、昭和十九年(一九八四)に中川の河川改修で南川崎に移転した。明治期の木曾根村は、明治二年(一八六九)に小菅県、同四年に埼玉県の管轄となる。同十二年(一八七九)

の郡制施行により南埼玉郡木曾根村となり、同二十二年(一八八九)の町村制の施行により南埼玉郡朝止村の「大字木曾根」となる。明治九年(一八七六)ごろの木曾根村は、戸数九五軒、人口六五六人、神社三坐、寺院一寺、牝馬一頭、舟三五艘、荷車五輛、産物は、米九〇五石余、大麦二四三石余、小麦五四石、大豆五〇石、茄子二〇〇貫、唐茄子四〇貫、葱一五〇貫などを産出し、「東京府下千住駅へ輸送」(武蔵国郡村誌)し、千住(河原)市場で売られた。同八年から同十九年まで二町目村と木曾根村両村の木曾根学校が普門寺に置かれていた。また同十年一月に金蔵院と金蔵院持観音堂が普門寺へ合寺、上木曾根に所在した地藏堂や不動堂なども、このころ普門寺へ合寺し、廃寺となった。

文芸欄

呉美代選

市民の皆さんの投稿をお待ちしています。

【応募先】〒340-8588八潮市中央一―二―一 八潮市役所広聴広報課広聴広報係

詩

義兄 緑町三 土澤 弘子
病院へ見舞い行く
義兄は痩せて小さくなり
うすくまるように寝ていた
胃と脾臓と食道の摘出手術を受け
食事もうるやうにはとれず
入退院を繰り返した
もうなす術がなくなつて
モルヒネで痛みを抑えていたが
やがて五十六才の生涯を閉じた
「生き様」は「死に様」というが
義兄は家族を思い、人にも親切だ
そんな義兄がどうして?と思う
「兄貴は動物を殺したからかな」と夫がぼつりと言つた
義兄は猟が好きで、狩猟解禁を待ち
仲間とよく山奥へ猟銃を持って
出かけていたのだつた

短歌

鶴ヶ曾根 安藤 知晃
どろどろの鳥逃げたるはらからの
仰ぐに哀し仲秋の月
南後谷 杉村 セツ
滝の音聞きつつ想う故郷の宿
墓参のあと心のすがしき
南川崎 伊本 則子
広報に載りたる人の熱き短歌
われ共感し涙あふるる
南川崎 小野塚喜代子
鶴の舞い朱の塗箸に納められ
敬老の日に市より届きぬ
大曾根 椎野さち子
月見草除草剤にてはかなくも
消えてしまひし花は幻
相模湾エンジンの音響かせて
大漁の船いま戻り来る

俳句

鶴ヶ曾根 齊藤 道子
月下美人音すごとく聞き初め
女三人無口となりぬ
中央一 猪瀬 利助
咲き満ちて雨に濡れ咲く紫陽花の
色冴えけむる梅雨の夕暮れ
八潮六 佐藤 秀子
名も知らぬ小さき蘭の一鉢は
楚々と咲きたり酷暑のなかで
柳之宮 平沼 良子
婚礼に招かれゆかむ夫婦して
寿ぎの辞も二人三脚
南川崎 松谷 永子
月下美人一夜限りの一輪は
白きを極むおぼの家に
大曾根 高谷 多門
一枚の赤紙により玉碎す
三十で散りし父恋うる夏

二丁目 平井 石龍
故郷の山に片足虹の橋
亡友の句を新盆の灯に口ずさむ
八條 杉村 知香
水子地蔵トノボも胸にそつと抱き
緑町五 加藤 龍子
蟻ほどのすず虫育ち鳴き初むる
八潮五 西森八重子
こおろぎと闇をへだてて一人いる
八潮六 藤崎 政子
赤とんぼ焼跡夕焼幼き日
大曾根 横山 英道
熱帯夜朝刊の入る音うつつ
鶴ヶ曾根 平本 愛子
農婦持つ草刈機の音のすさまじき
緑町五 藤波 ふみ
葉が枯れて瓜のころ寝す秋の畑
大曾根 小倉 花子
水着あと日焼けし孫の夏終わる
坂 沼野 あい
ゆるやかな川の流れや施餓鬼寺

大曾根 日方美代子
こわされる住まいの庭にさぐる熱れ
八潮七 小倉 孝義
黒雲の忙しく走る秋の夜半
八潮七 茂村 つ留
孫の描くフックス届く敬老日
大曾根 小倉 義孝
一服す飲に止まりし赤とんぼ
八潮五 小林 光
菊人形花の衣装で威儀たし
八潮七 石井 忠枝
仏僧の説法つづき蟬時雨
柳之宮 尼ヶ崎友江
学童のやさしき便り敬老日
大曾根 古根 昌明
童顔に戻りて鮎を掴み捕り
鶴ヶ曾根 齊藤 初子
雲海に富士借景の素顔見せ
兼六園由しき松の木蔭あり

三郷市
○土曜の午後のコンサート
～ピアノと朗読による室内楽コンサート～
パッハ没後250周年にちなんだコンサートです。
●10月28日(土)、午後2時開演
●三郷市文化会館(三郷駅北口徒歩13分)
●1,000円(高校生以下半額)
●三郷市文化会館チケットサービス ☎58-9900

吉川市
○吉川市文化祭
●11月3日(金)～5日(日)
●吉川市中央公民館(吉川駅北口徒歩10分)
●芸能・音楽の部(邦楽、詩吟、ピアノなどの発表)、展示の部(絵画、書道、水墨画などの展示)
※芸能・音楽の部の時間については、中央公民館でご確認ください。
●吉川市生涯学習課 ☎82-9696
吉川市中央公民館 ☎81-1231

行ってみたいな
となりまち
近隣4市1町のイベント情報をお届けします。
ぜひ、お出かけください。

越谷市
○チューリップコンサート
～2001年心の旅～
●10月27日(金)、午後6時30分開演
●サンシティ・大ホール
●あの頃と変わらないチューリップが時を超えてやってくる
●S席6,500円、A席5,500円(全席指定)
●サンシティ越谷市民ホール ☎85-1112

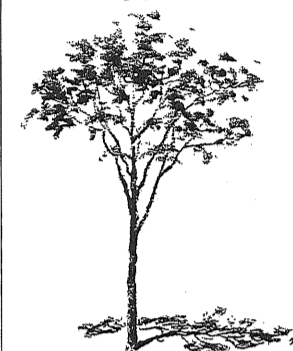
草加市
○草加市民まつり
●10月21日(土)・22日(日)、午後1時～8時
●草加松原遊歩道、草加市文化会館ほか(松原団地駅東口徒歩5分)
●環境テーマパーク、こども動物園、こども大名行列、ミス草加コンテストなど
●草加市コミュニティ・文化課 ☎22-0151

松伏町
○ふれあい松伏フェスティバル2000
～歌と踊りとバンドのページェント～
●10月15日(日)、午前11時～午後8時
●松伏記念公園周辺(北越谷駅東口からエローラ行きバスで「松伏高校前」下車)
●ヘリコプターによる町内遊覧、花火、ミニSL、模擬店、フリーマーケットなど
●松伏町産業振興課 ☎91-1854

郷土の歴史 362

八潮の地名考

木曾根の地名 その式

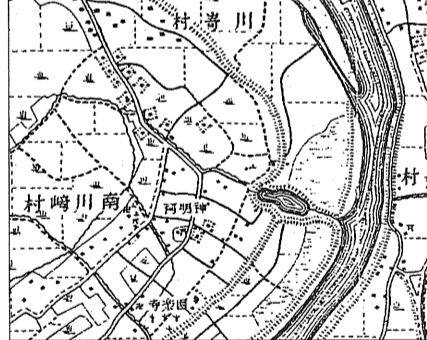


大字木曾根・木曾根 明治22年(八六)から南埼玉郡潮止村の大字名。戦後(昭和20年)以降は、木曾根を木曾根と書き表す。昭和31年(五五)から南埼玉郡八潮村・八潮町の大字名。昭和47年(五七)から八潮市の大字名となる。なお木曾根の西部は、区画整理事業により八潮と地名変更し、現在に至る。

明治6年(三七)の地租改正のおりの字地は、上耕地、西耕地、下耕地、水押(村誌取調書)、昭和47年(五七)ごろの公図の字地は、西上、下、水押(八潮町全図)、俗称地名には上木曾根や下木曾根、新田沖、堤外などの呼称がある。

に「村ヲキ」と記されることから、江戸期は広く用いられてきた呼称と見られる。(真孤田) 字下の集落地名で、真孤が繁茂した水田に因む地名。(宮田) 字上の集落地名で、木曾根村の鎮守水川久伊豆合社が勧請される水田に因む地名。または、利根川(大河・現中川)の川岸(河戸)に宮田地名が分布するが、木曾根が大河戸御厨のあり、伊勢神宮領主の佃(領主取り分の水田)に因む地名と推測される。

地名変更。字下耕地・下 明治期は下耕地、大正期(一四)より字下と呼ばれた字地名。集落の下(南)に位置する地名。一般的に呼称は下木曾根、下木などの一〇四〜一五九番地の区域。また、祭り組名は「新田丁」と呼ばれる。字水押 明治期(一四)より現在にいたる中川堤外の地名で、二〇九五〜二〇二番地の区域。一般的には堤外と呼ばれる。地名は、水害により土手決壊に因む大正末の中川改修のありまで、破壊し濁流によりできた切所池「下池」があった。明治14年



文芸欄

詩

芽吹くとき 伊草 中山 靖子
詩が生まれそなた
心ももやもやするが
ことばにならな

呉美代選

短歌

一シ(映像)で表現するのです。従って五感にひびく言葉を選ばなくてはなりません。理論的なものも独自の発見があれば詩になります。
鶴ヶ曾根 安藤 知見
稲架によく干したる米か古里の
包みを解くに日の匂い立つ

俳句

二丁目 平井 石龍
寄り添うて風生む高さ紫蘇の花
秋天下子等の遊技の延び縮み
中央一 山角 微陽
山門に陽を差し入れて暮れ沙華
落ち穂にも友よよかわす群ら雀

俳句

大曾根 日方美代子
祭すみ木枯し一冬支度
緑町五 藤波 ふみ
赤とんぼひと休みする竹の垣
坊 沼野 あい
孫娘錫の杖もつ秋祭
八潮七 石井 忠枝
聞き惚れる孫弾くピアノ文化の日
柳之宮 尼ヶ崎友江
栗むきつ遠き赴任の孫思う
木曾根 古根 昌明
打ち水や慌てて逃げる蜆の子
鶴ヶ曾根 平本 愛子
老いの身をかねて着るや秋袷
八潮五 小林 光
舞い落ちる紅葉が街の道に染め
大曾根 戸張 公子
敬老の日にくぐり合う菩薩さま
鶴ヶ曾根 齊藤 初子
治療師の掌の温もりや秋の冷え
肩越しにほのかな香り秋扇

市民の皆さんの投稿をお待ちしています。
【応募先】〒340-8588 八潮市中央一-211
八潮市役所広聴広報課広聴係

吉川市 三郷市 越谷市 松伏町 草加市
行ってみたいな となりまち
○市民まつり 健康福祉まつり、交通安全まつり、農業まつり、商工まつり、消費生活展の5部門で構成される盛りだくさんのまつりです。
○第32回越谷市民文化祭
○宇田川杰子ヴァイオリンコンサート
○国際ハーブフェスティバル2000-草加